

未知のウイルスと戦う国民と税の役割

～医療を通じて考えたこと～

福岡教育大学附属久留米中学校3年 平野 結愛

今年、新型コロナウイルス感染症により世界中が未曾有の事態に陥り、この数か月で生活は一変した。未だ治療薬、ワクチンの有効性は確立されず、未知のウイルスは、私たちの生活、命を脅かし続けている。日本は、巨額の財政支出を行い、国民の生活と命を守り経済再生を図るという試練に直面している。

私の母は、高度救命救急センターで看護師として働いている。日々重篤な患者が搬送されてくる過酷な現場に加え、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れにより、なお一層過酷さを増しているという。日頃から呼吸器や人工心肺装置装着等の重症患者を対象とする救命センターは、24時間体制で治療、看護を行う必要がある。その分、今回の新型コロナウイルス感染症患者の受け入れは、24時間、常に感染と隣り合わせとなる。救命センターで職務に当たる誰もが、自分も感染するのではないか、他の患者や自分の家族に感染を持ち込んでしまうのではないかという不安や恐怖を抱きながらも奮闘していると母は話していた。そして、その新型コロナウイルス感染症は、指定感染症に指定されるため、入院治療の医療費一部は公費負担となる。このような突如として巻き起こった未知のウイルス感染に対する治療に対しても、誰もが最小限の負担で医療を受けることができるように備えられていることを知った。国民が納める税金は、いかなる不測の事態に対しても、国民に還元されることを今回の新型コロナウイルス感染症で強く感じた。テレビなどのメディアで、医療従事者が防護服に身を包み、自身への感染の恐怖を感じながらも、かけがえのない命を救うべく奮闘している姿を幾度となく目にしてきた。きっと母も同じように戦っているのだろう。今回の新型コロナウイルス感染症は、医療従事者の懸命な努力と、税金からの医療補助により、かけがえのない命が救われていることを忘れてはいけないと感じた。今なお、新型コロナウイルス感染症は収束せず、先行きの見えない不安の中にある。しかし今回、未知のウイルスにより生活、命が脅かされる事態に対し、巨額の財政支出から医療に限らず、様々な形で私たち国民は支援を受け、守られていることを忘れてはいけない。国民が納めた税金が一人ひとりの生活、命を守るべく、還元されている現状をしっかりと見つめるべきだと思った。

今後も、豊かで安心して暮らすための社会保障制度等の充実と財政の構築は重要である。明るい未来へ向け、社会の一員として暮らしていくために、公平な租税負担と給付について、私たち国民一人ひとりが税金を正しく理解し考えることが重要だと改めて考えさせられた。